第拾
八短
梅蝶樓國貞画
下巻
内寅
金松堂板
新刻

金葉
七變化
春霞樓秀賀作
上巻

金花七變化

第一八至三〇編

へ13
1182
6

玉兎七変化

小二
五〇八
冊
5

特13
へ遠
1182
6

金花七變化

春霞樓秀賀作

上巻

一13
132
6

八編
第拾
梅蝶樓國貞画
下卷
丙寅
金松堂板
新刻

金華
七変化
第十八輯
上之巻
鶴亭
漢文化
梅蝶楼国貞
金松堂

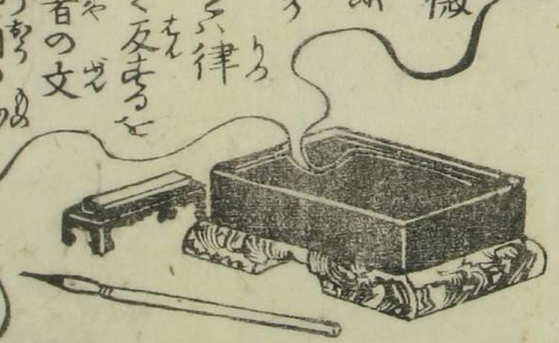
きんかん
七福神
十八編
下の巻
つぐみの絵
きく賀
風月堂の画

丙寅孟陽
発市

凡稗史編ゐ七箇の法則あり一ゐ主客ゐ伏線
三ゐ襯染四ゐ照應五ゐ反對六ゐ省筆七ゐ隱微
ゐ主客ゐ伏線ゐ後ゐ
謠曲ゐ所謂シテワキゐ出志き趣向を數回以前ゐ先其絲口を視せる事
襯染ゐ下染ゐ後の譚の種を蒔き照應ゐ律
詩ゐ對句有ゲ如ー反對ゐ照應ゐ其意同ト く反せるを
言省筆ゐ縛の長き伐縮ゐ隱微ゐ作者の文
外ゐ深意あるを言ゐ此処ゐ余計縛ゐ一老翁の物
語を其侭挑出ゐ文盲千人を嘘吸ゐ昊眼千人一笑を潜で言ゐ勿ゐ示ス

慶應三丙寅初春

鶴亭主人戯記



○大守義弘
○古川水黽の愛女
藻の花
此風俗八後の譚の親の深

怪猫の為ゑ本心を乱し
遊興ゑ恥り玉ふ
○典膳の一子
渋江柿太郎成行
家を失ひ
身を亡わ
○大内家の
近臣
浪江
浮太郎
雑賀

玄蕃の一子山口梢之丞春卿

武部の一子
川上水之助清照

浮

う
水

十落

國貞畫
秀賀作

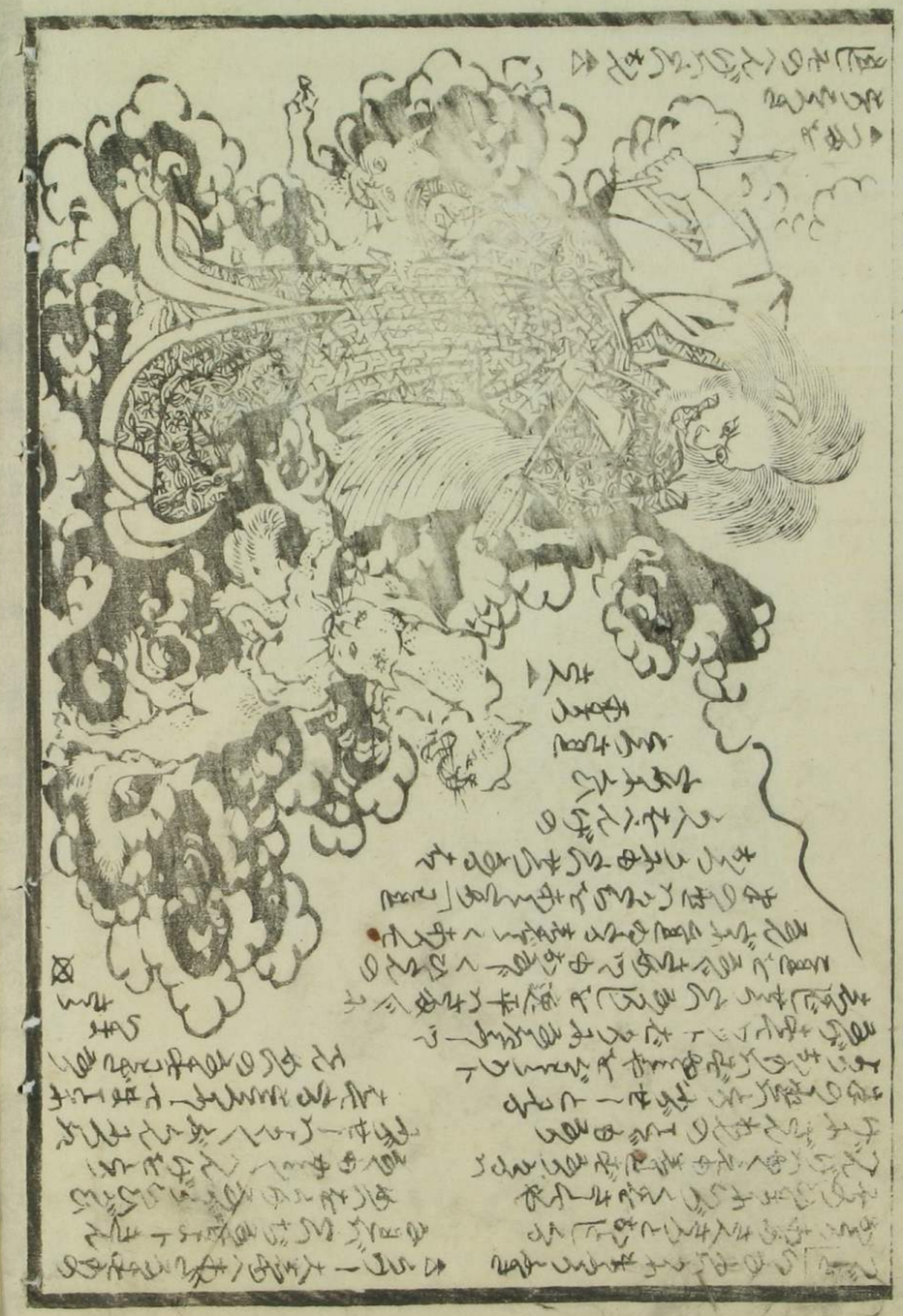
三

小森半之丞

落葉實ハ怪猫

落

逸
鳥



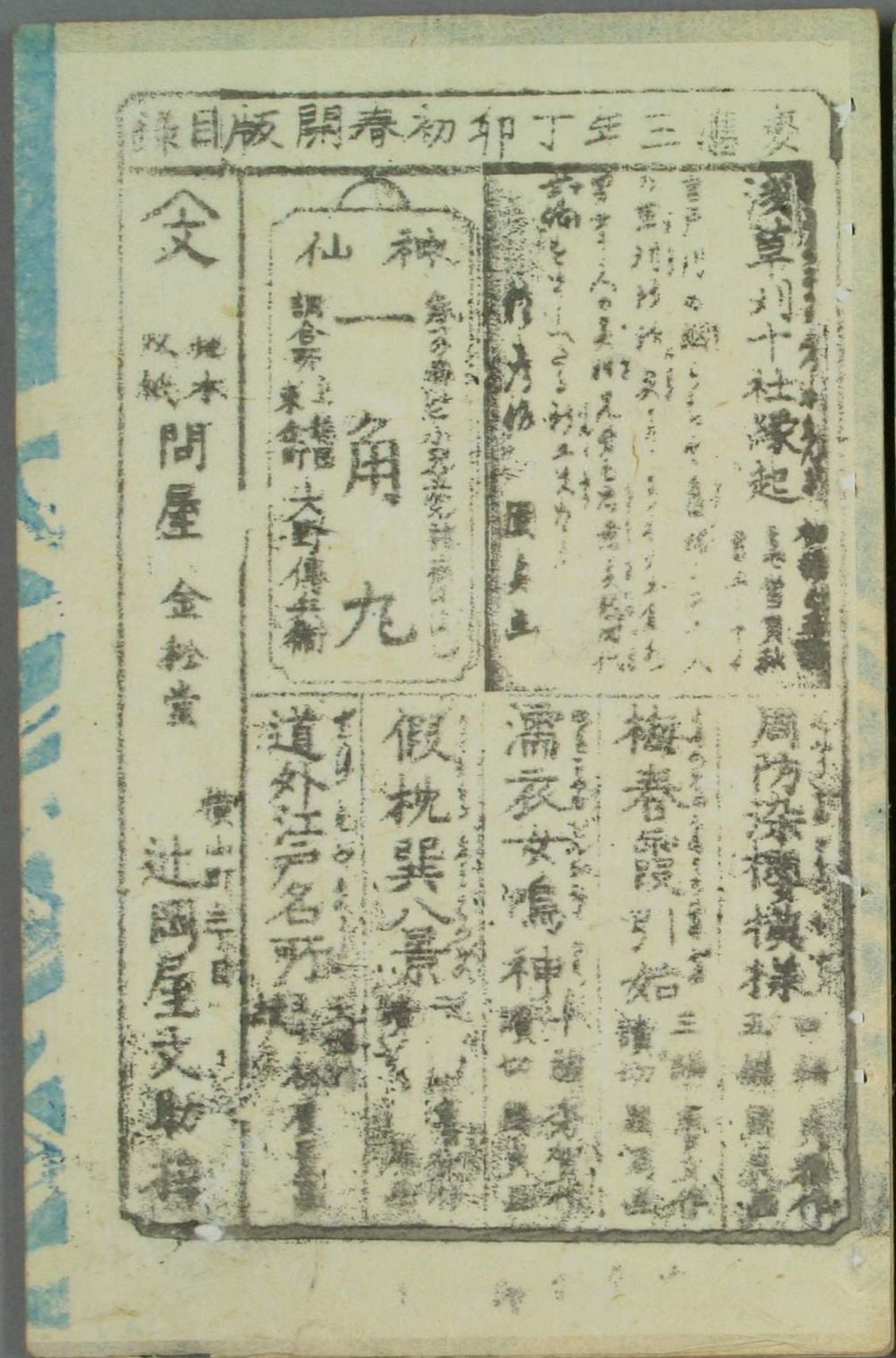
梢

水
半

柿
梢
水

大

金華毛氣花
秀賀著
國貞画
水鏡山鳥奇談 四編 五編 國司画 秀賀文作
傀儡師 三編 四編 國綱画
花の御所九重日記 初編 秀賀作 國貞画
文 地本雙紙問屋 金松堂 横山町三丁目 辻岡屋文助梓



安政三丙辰年　丁卯初春開版

目録

浅草川十社縁起
周防染模様
梅春霞引始
濡衣女鳴神
假枕巽八景
道外江戸名所

神仙　一角九

調合所　東錦堂　大野傳兵衛

文　地本双紙　問屋　金松堂

横山町三丁目　辻岡屋文助板

金葉千變化

上巻

鶴亭賀作

金華士變化

鶴亭賀作

上巻

第九編

有歌川國貞画

下巻

金松文庫

金華
七変化
十九編
上之巻

鶴亭著
梅蝶楼画

金松
壽桜

金華

七福人化

十九卷の下

高う賀紀

國貞画

辻子梓

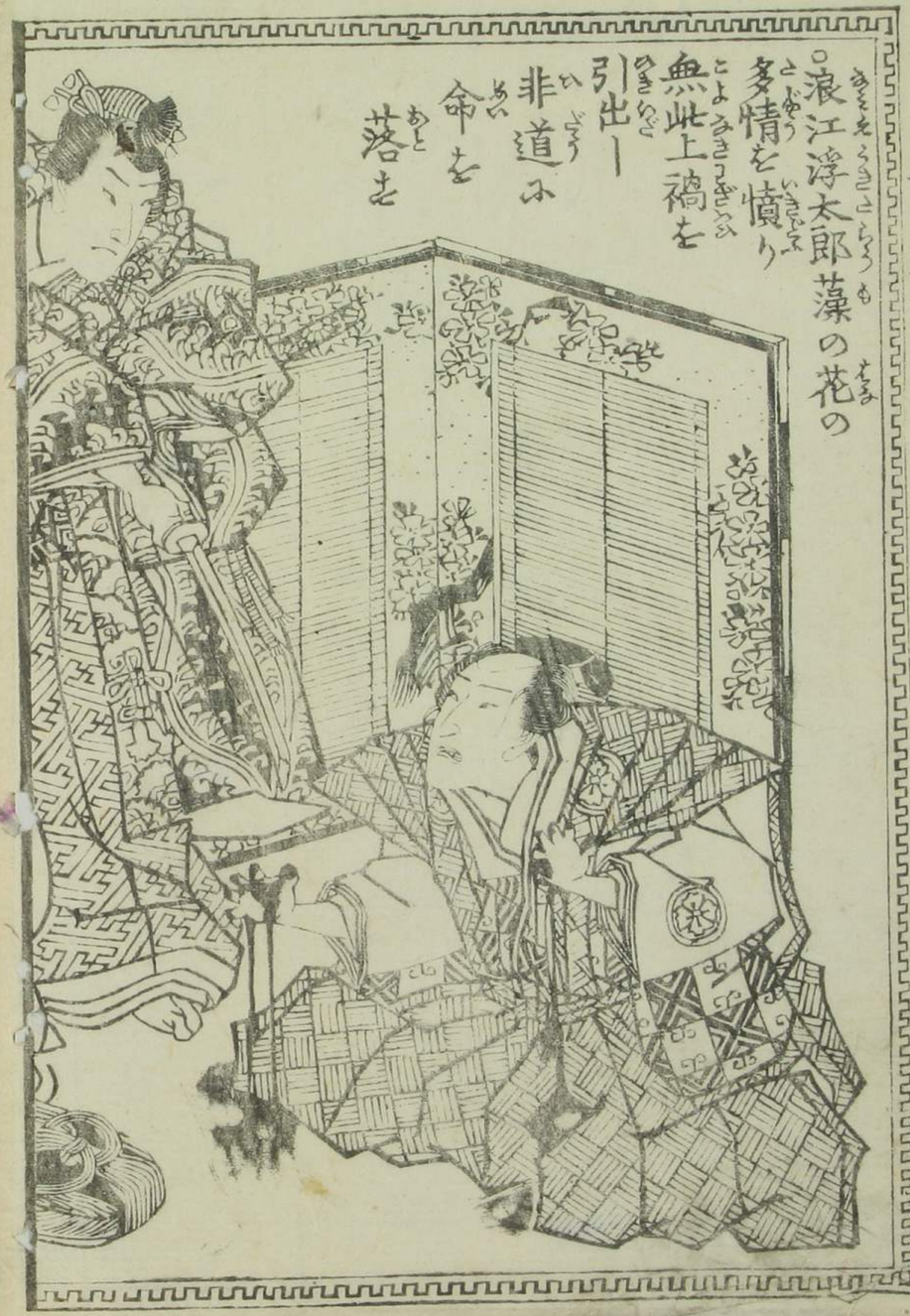
自序

釋尊提婆羅樹の胯より降誕菅公好文木の下ゆ
臨降有りと言譬ども恐惶それど。此処ゆあやーの者あり。
稗官が腹を借物ゆ毫の先より稿出せー其名ハ則草史郎
人迫ゆらねど御貝く員の余光ゆ歳々編を重ね星霜積ツて
既ゆ十有九篇と成るゑ古今不通の田家茶話ゆ。趣向の意
甚鈍く。天ゆ遠波の衣裳をさえ餞らざれバ。視ゑゆ実もなく
香も無ゑれど。番茶も煮ゑ花と御見捨ゑく。金ゆ花の花々ゑく
競求て高覧ゆらば画師と作者の夫婦ハ勿論養親の
梓元ゑ喜慍是ゆ勝るるものあらめや

春霞楼主人　鶴亭漁夫識

芦原國之進
春日野の行跡を
怪み却て妖猫
の為ふ計られ
無実の罪ふ非
命の死を遂ぐ
浪江
浮太
郎の
妹
千鳥
是又
怪
猫
の為ふ
泉下
の鬼

七変化十九
妖猫の魁首
玉垂
春日野の
實ハ
春
野の
猫


浪江浮太郎藻の花の
多情を憤り
無此上禍を
引出し
非道ふ
命を
落を

大守
義弘
益悪行
増長
古川水菴の
愛女藻の花
伯父撿校の霊ふ遇てより
大守ふ怨を復さ為娼を獻ぜ
大守の意中を蕩を

国

王

山神社

二

七変化十九
つゞき
吉川検校の霊
緑の市の夫
春
玉

対花楼

國貞画

秀賀作

柿

つぎき
のきすらつき
奇石等怪木形を
左
常形を

浮
曽
浮太郎

監

孝

春霞樓秀賀著　梅蝶樓國貞画

金華七變化　十五編　秀賀著作　梅蝶樓國貞画

水鏡山鳥奇談　四編　秀賀作　五編　國周画

蓬莱嶋臺　三編　秀賀又作　四編　國綱画

傀儡師

花の御所九重日記　初編より秀賀作　追々出版　國貞画

本制琴子油　日本橋通十軒店　武藏屋榮之助

仝　地本雙紙問屋　金松堂　横山町三丁目　辻岡屋文助梓

慶應三丁卯年初春開版目錄

浅草刈干社縁起　初編より五編　貞秋

周防染櫻模様　四編　貞雅作　五編　國貞画

梅春雨段引始　三編　貞雅作　讀切　國貞画

濡衣女鳴神　十編　秀賀作　讀切　國貞画

假枕巽八景　二編　貞雅作　讀切　國貞画

道外江戸名所　大編物　五編　秋月亭画

仙一角九

調合所　上總國東金町　大野傳兵衛

文

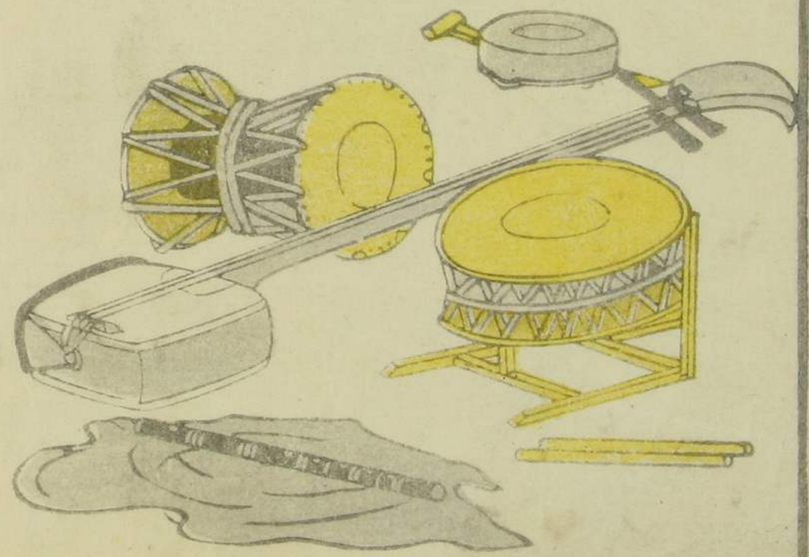
地本双紙　問屋　金松堂　横山町三丁目　辻岡屋文助梓

春霞樓秀賀作

第弐
梅ヶ枝
下巻
梅蝶楼國貞画
丙寅
新

寶尽七福
春霞楼秀賀作

きんくるせ面んけ
第二十編より巻
くるせ事秀賀
さく洽く梅蝶樓
くるおもあ色がく
金しやう壹ぢ反
かめげを富のる
かちん坂ちり



覺

七変化　二十番
下の巻　上下二冊
志らなみ　きく
小貞　志ら
辻文　書物
寅の春　彩板
以上

全部引書目録

一宇曽物語
一根色艸
一鉄炮譚
一作物語
一寓言集
一文盲記
一出放題草紙
一訛言葉
一假名ちぐん
一言葉横道
一雅ざゝし
一俗々愚秋
一當書草紙
右の本ハ何れの書林にも無之

乙丑夏稿
丙寅春発

鶴亭秀賀記

浪江浮太郎八九味
責又八鳴物責餓
鬼責等み逢く
竟み憤死を做ま

古川水菴の渾家
題藻の花を
の姿

そのときあ
大ちのちんさつふまを
らき太郎ゥさやうの
やびのつあをくぎねをを
ヤツぶんのやびさたよう
くまあのこのさたのごき
せんろつをたーにとるみ
あもくまこそうもきくく
きようたや人ンらいあ
ぎをのそろれをかくまだろ
ろうとのんど性猫ゥうの
ろあかろれもくるー
大らいさろふたもしあぼ
をまつとさうぶをあーあべ
きさみをちろねあろくま
をのとろかたまみけのさの
一本ゥ
さいるまび
さちちちそのの
酢をくまあのと
へんドやびさたの
みくさのちけく
あろもぎやし
ろらちぎくの
どてあろその
いさいさえ
ざさまど
うきち郎ゥ
とのせちつにとそ
ろろふらべきこも
あのまびさめをちち
ろろのらべきこの

刺客りみあるべくもぞ

浮

王

山
川

玉

春

桜
春雨の宵
みぞれの比鈴

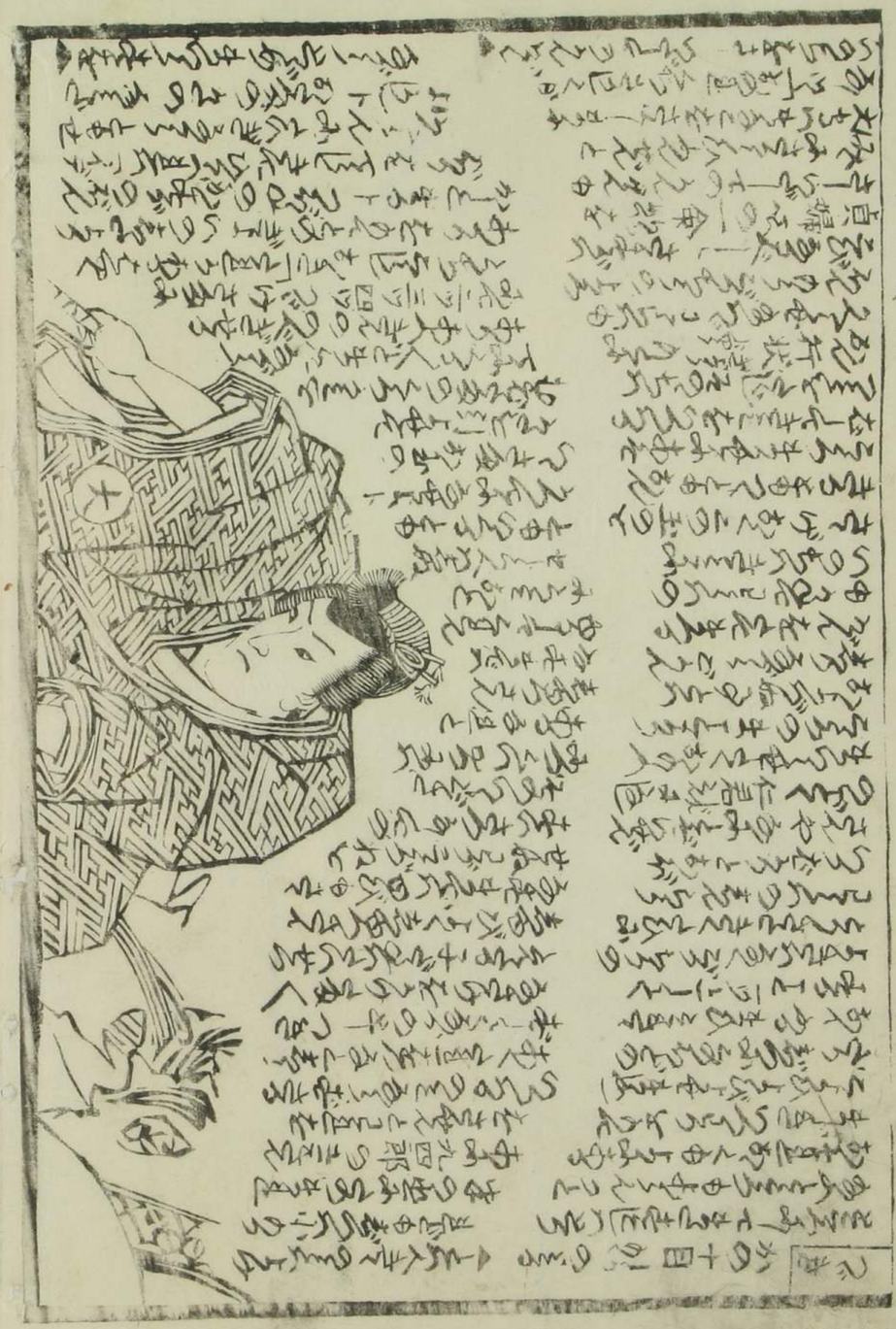
引ぎりこだ

國貞画
秀賀作
月形ごろうぞう
下の巻へ

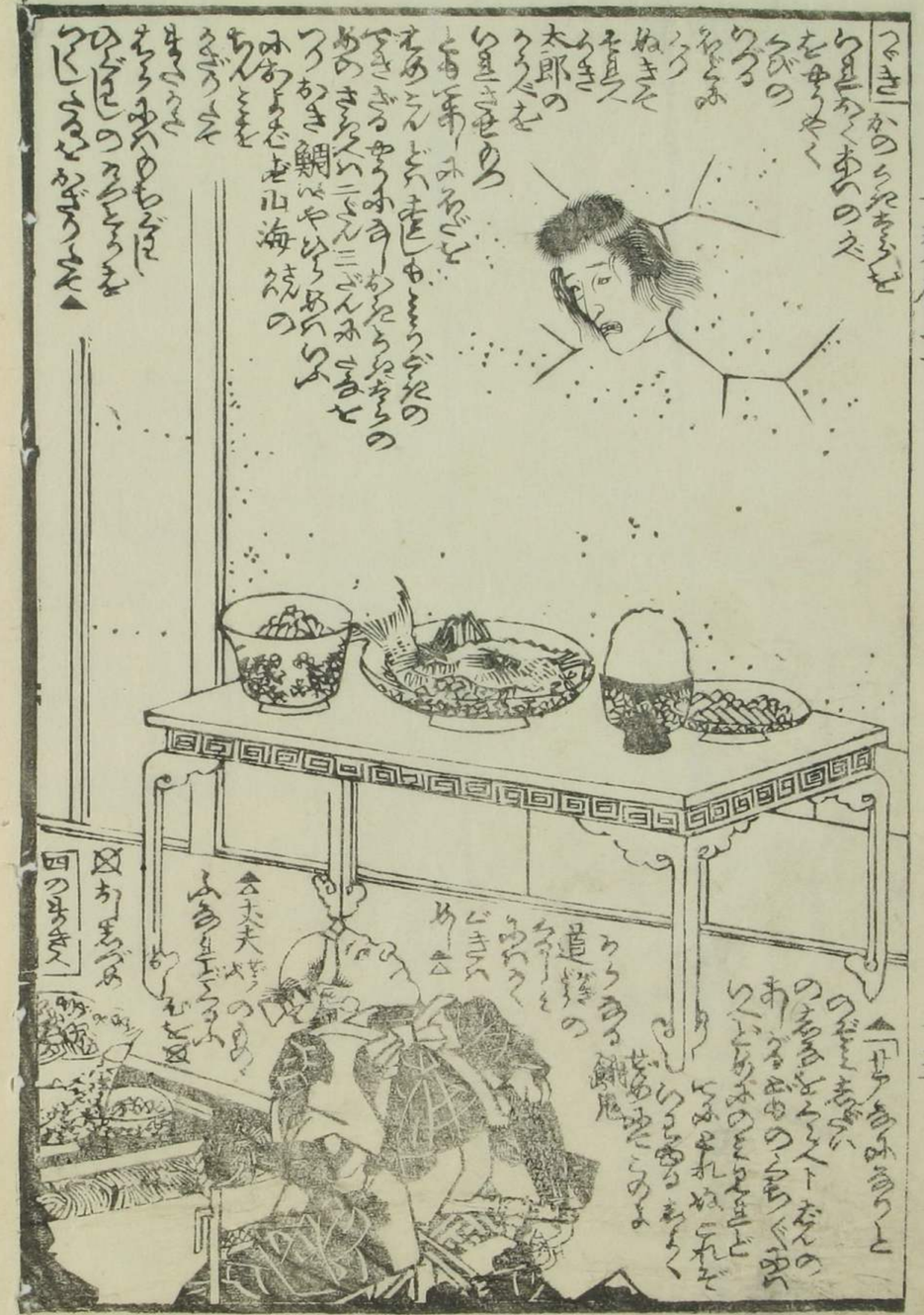
上の巻へつづく
太郎
柿

つぎ
王

大



浮
柿



大内家
不明の間
の盗鰒

金華七變化

水鏡山鳥奇談　四編　秀賀作　五編　國貞画

偐偏師　三編　春文作　四編　國貞画

花の御所九重日記　初編ハ秀賀作　追々出版　國貞画

文　地本雙紙問屋　金松堂　横山町三丁目　辻岡屋文助梓

慶應三丁卯年初春開版目錄

浅草川十社縁起

周防染模様

梅春霞

濡衣女鳴神

假枕異人景

道外江戸名所

仙一角九

讀賣新聞社 大野傳兵衛

文

地本双紙 問屋 金松堂 横山町三丁目 辻岡屋文助